

## 新型コロナウイルス感染症の影響に関する農林漁業者からのヒアリング 概要

日 時：令和2年3月31日（火）15時30分～16時45分

場 所：農林水産省7階講堂（スカイプによるウェブ会議）

出席者：（農林漁業者）静岡県温室農業協同組合 組合長 鈴木和雄氏、  
和牛一貫農家 興梶哲法氏、  
全国肉牛事業協同組合 副理事長 中林正悦氏、  
JA伊達市組合長 佐藤哲氏、  
日本花き生産協会 会長 久家源一氏、  
さいたま榎本農園 榎本房枝氏、  
（有）小松園芸 役員 小松真知子氏、  
（株）さつまファインウッド 代表取締役 林雅文氏、  
北海道漁連代表理事会長 川崎一好氏  
：（農林水産省）江藤大臣、伊東副大臣、加藤副大臣、河野政務官、  
藤木政務官、官房長、総括審議官、政策課長、  
災害総合対策室長

（鈴木氏）新型コロナウイルス発生以来、市況が悪くなっている。メロンの単価が2月は前年比で71%、3月は67%に落ち込んでいる。生産原価を割っている状況であり、経営状況の悪化が見込まれる。これまでのような対策ではなく、前例のない対応をお願いしたい。

（興梶氏）枝肉価格の下落で肥育経営が悪化し、それに伴い子牛価格も下落して繁殖経営も危機的な状況にある。地元家畜市場の3月の子牛相場は、前回比1頭当たり15万円ほどの値下がりとなった。

また、高千穂のような中山間地における子牛生産は、現状として生産農家の7割が65歳以上となっている。高齢農家にとって、先の見通すことのできない現状と子牛価格の下落は、生産意欲の低下を招く。これにより一層離農が進むと、中山間地の生産基盤崩壊のおそれさえある。このような事態にならないよう、冷蔵・冷凍している在庫の国産牛肉を消費者の求めやすい形で流通してもらいたい。例えば、ふるさと納税の返礼率やキャッシュレス決済の還元率の引上げ、家庭内消費を促す取組の支援、ネット販売の運賃・手数料等の支援といったことをお願いしたい。

今後も枝肉相場、子牛相場が下落する状況が続くようであれば、早急かつ強力で国の支援をお願いしたい。

(中林氏) 食料の基本は、自給自足、地産地消、内需拡大、国産回帰と考える。

牛肉需要が減退しており、牛肉の流通が滞っている。この状態を解消するには、牛肉を食べてもらうしかない。また、在庫を流通させるため、地元食材を使った学校給食の無償化やふるさと納税の活用などで通常価格より安価に消費できる仕組みを作ってもらいたい。

肉用牛経営の負担軽減のため、牛マルキンの負担金を免除するなど、特例的な措置をお願いしたい。また、新型コロナウイルス発生以来、いち早く農業セーフティーネット資金の無利子・無担保融資が措置されたが、融資枠の拡大をお願いしたい。加えて、牛マルキンの発動状況に関して、全国規模で枝肉価格が落ち込んでいる中で、地域間発動の有無、金額の多少について畜産農家間で不公平感、不信感を口にするようになった。価格の是正を念頭にマルキンの一本化を選択肢のひとつにしていただきたい。

(佐藤氏) 学校給食の停止による生乳の需給緩和を懸念しており、緩和が続けば、酪農の生産基盤を毀損しかねない。需給調整のため、脱脂粉乳対策を講じてもらいたい。また、酪農経営で感染者が出た場合に営農が継続できるよう、生産者団体への指導・助言、酪農ヘルパーの確保、マスク、消毒剤などの支援をお願いしたい。

(久家氏) 嗜好品である花は今後の消費減退が懸念される。いかに消費を維持していくかが重要。「花いっぱいプロジェクト」により、各地で花が飾られており、感謝。花き農家の今年の収入は激減する見通しであり、経営継続のための支援が必要である。また、次期作に向けて、球根や種苗、生産資材などの購入に費用がかかるので、負担軽減のための支援をお願いしたい。

ビクトリーブーケをオリンピックで使用いただくこととなったが、オリンピックが延期になった。花き業界が一丸となって、無償で提供するとお願いして実現した。しかし、既に準備に当たって経費が掛かっている。これから1年かけて準備することとなり、負担増になる。負担増分だけでも国で負担いただけるようオリンピック組織委員会に依頼いただけないか。

(榎本氏) 都内の飲食店への農産物の納品が9割減少して、大きな影響が出ている。野菜や果物は長持ちしない。全国の女性農業者とネットワークがあり、その中には直売りをしている人がいる。納品先がないならどうしていくかを考える必要があり、地元の人へ野菜を分配するといった地産地消を進めることが有効と考える。

(小松氏) 中国人実習生が入国できなくなっており、いつ入国できるか見通しも立たない。今期の作付けがどれぐらいできるのか分からない状況。このまま実習生が入国できなければ売上げが30%減少する見込み。何としても人手を確保したい。派遣を活用することも考えているが、時給単価が5割以上増える。経済的に耐えられないという不安がある。このままでは収入の減少と費用の増加は避けられない。労働力を融通してもらえるような対策をお願いしたい。

(林 氏) 林業へのかなりの影響を懸念している。国主導の有効な対策として、木材の需要拡大策として、住宅・非住宅、土木用材、外構材等の国産需要の喚起、原木・木材製品の輸出促進、災害復旧工事への大径材丸太等の使用拡大、バイオマス燃料材の価格の維持対策、公共建築物の国産材の更なる利用拡大の促進、林業対策として、需給バランスを重視した国産材供給体制づくり、再生林・育林事業等へのシフトの加速による林業事業体の仕事の確保の支援、森林環境税を活用した森林整備事業のための集約化の促進、金融支援として、林業・木材産業従事者の運転資金の対策、林業・木材産業従事者の雇用助成金の検討、高性能林業機械の返済金の猶予をお願いしたい。

(川崎氏) この1、2年の不漁に加えて、新型コロナウイルスの影響が何年続くのか分からないといった状況で、漁業に身が入らないという思いで過ごしている。ホタテ、ウニ、ナマコ等の単価の高い食材が売れず、単価も下がっている。特にホタテは中国輸出の停滞により170億円の影響が出る可能性がある。秋サケ、サンマ、いか漁等が例年のように行えるのかも不安。あらゆる魚種の魚価流通対策として、冷凍冷蔵庫の入出庫料、保管料、横持ち運賃等の負担についての支援をお願いしたい。また、現在逆ザヤになっている原料を加工する際の加工料の助成や漁業収入安定対策事業の拡充・強化、基金の積み増し、水産物の保管・供給の平準化機能の拡充、事業継続のための金融支援をお願いしたい。

(大 臣) 商流がいつ回復するか分からない状況だが、皆様の心が折れないようにできるだけのことをやっていく。V字回復もいずれしないといけないが、まずは、現状をいかに切り抜けるか、来年の作付けをいかに担保するかが重要だと思っている。

メロンなどの農産物が原価割れしていることについて、このままでは離農や中山間地域の崩壊にもつながっていく。特に中山間地域では複合経営が多く、畜産の占める割合も高いことから、在庫を流通させるための対策を講じなければならないと思っている。

生乳に関しては、今後、現場で操業が維持できるのか、人員を確保で

きるのかといったことが課題となってくる。地域の方々との助け合いが今こそ大事である。

花に関しては、消費者にたくさん花を買ってもらえるよう運動を実施している。国民が互いに近所の方を助けるという気持ちを持ってもらえるよう運動をやっていききたい。

ご紹介いただいた直接販売の取組は良いお手本となる。苦しい状況が続くと思うが、地域のリーダーとして頑張ってもらいたい。

人員の確保に関しては、今後更に深刻化していくと見込んでいる。地域で農業の経験のある方々に協力していただきたいと考えている。また、農業大学校での研修の一環として生産現場に出てもらうことで、現場を支援することができないかと検討している。

40年、50年を超えて大きくなりすぎたヒノキ、スギなどを国民の皆様へ供給できるよう、川上から川下までの対策を支援していくべきと考えている。

今回、スカイプでのウェブ会議という条件の中でしっかりとした意見を言っていたことは我々の政策推進の後ろ盾となる。いただいた意見を政策に結び付けられるよう頑張っまいるたい。

(伊東副大臣) 生産をしっかり維持するため、「新型コロナウイルス感染者発生時の対応・業務継続に関するガイドライン」を示させていただいたところ。まずは事態の収束が大事。

(加藤副大臣) 農林水産業は国の基であり、絶対になくしてはならない。皆様の期待に沿えるようしっかり対策を講じていくので、「我々が国を支えている」という強い気持ちで取り組んでいただくようお願いしたい。

(以上)